

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1136 2014年11月号

## 農業高校生を対象にした森林環境教育を実施

この森林環境教育は、高知県立高知農業高等学校森林総合科のカリキュラムとして実施しております。 【詳細は2頁】



治山工事現場での実習



林道工事現場での実習

## 高校生現場実習

〈農業高校生を対象にした森林環境教育を実施〉

〈治山課・森林整備課・技術普及課〉



四国森林管理局では、高知県立高知農業高等学校森林総合科からの依頼を受けて、今年も森林環境教育を行いました。

この森林環境教育は、森林総合科のカリキュラムとして実施しており、一〇月一〇日に、二年生二二名が高知中部森林管理署管内で治山工事を、一〇月二二日に、三年生一四名が嶺北森林管理署管内で林道工事の現場実習をそれぞれ実施しました。

治山工事では、治山の森

で治山の概要を学習した後、谷留工と、土留工や山腹工の現場へ移動して実物



治山の概要を学習

治山工事現場での説明



の見学をしました。生徒達は、工事の規模などに驚いた様子で、講師の説明に耳を傾け、真剣にメモをとっていました。

また、林道工事では、あいにくの天気でしたが、林道新設工事の測量から施工までの流れについて学習し

ました。このカリキュラムは、授業で学習している最中でもあり、生徒達も熱心に聞き入っていました。

両工事とも、授業で図面や写真だけで学習するのはなく、普段、見る機会の少ない現場や、施設、工器器具等を見ることができると同時に、請負事業者から、天候に左右される仕事であることや、安全に一番気を配っていることなど、現場の生の声を聞き、現場での作業の大変さも痛感したようでした。

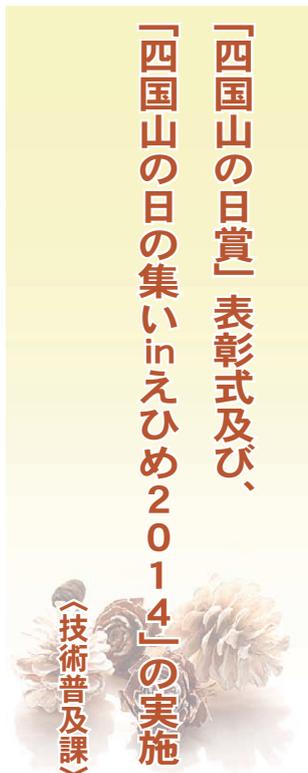
今後とも、四国森林管理局では、林業を専門に学んでいる高校生の学習支援に取り組んでいきます。

林道工事現場での説明



林道工事現場見学





一〇月七日に、平成二六年度「四国山の日賞」の表彰式を四国森林管理局において実施しました。

四国山の日賞は、平成一六年に四国四県と四国森林管理局が行った、「四国の森づくりに関する共同宣言」の趣旨に沿った取組を積極的に推進している団体等を表彰するものです。その取組を広く紹介すること、四国山の日PRを図るため、平成一八年度から実施しており、今回で九回目となります。

局長室で行った表彰式に続き、各受賞団体の代表者と交えた昼食懇談会では、お互いの活動状況等の情報交換を行うなど親交を深めました。

その後、高知市仁井田の木材市場や、木質バイオマス発電施設の見学等を行い、最新の情報を得ることができました。今回、「四国山の日賞」を受賞された団体は以下の六団体です。



四国山の日賞受賞者の皆様浅川局長を囲んで

- 木材利用部門
  - ・ランティア会(香川県)
  - ・四万十町森林組合大正集成材工場(高知県)
- 森林環境教育部門
  - ・香美市立大桁中学校(高知県)
  - ・愛媛木材青年協議会(愛媛県)
  - ・もっこり倶楽部(徳島県)



木質バイオマス発電施設見学



木材市見学

また、今年からは、これまで「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき実施してきたイベントが見直され、四国の森づくりネットワーク主催(四国森林管理局・四国四県後援)のイベントとして「四国山の日集いinえひめ2014」(一〇月二二日～二三日)が愛媛県松山市で実施されました。

当日は、台風の接近により開催が危ぶまれましたが、四国各地域において、森づくり活動を実施しているランティア団体を中心に当局及び四国各県からの参加者を含め多数参加するなか開会式が行われました。

また、基調講演では、四

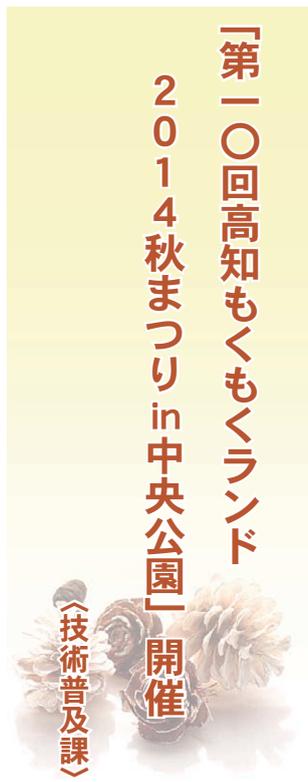
国森づくりネットワーク会  
長から「四国山の日・四国  
の森づくりネットワーク・  
森づくり安全技術・技能地  
域推進協議会の歩み」と題  
した講演がありました。

その後、二つの分科会  
に分かれ、参加した分科



四国山の日集い  
inえひめ2014

会では、「広島山の日県民  
状況の説明があり、参加  
の集いの取組」、「ボラン  
ティアの支援」、「四国山  
の日をデザインする」を  
テーマとして、各講師か  
ら、それぞれの取り組み  
の活発な意見交換等が行  
われるなど、有意義な分  
科会となりました。



秋も深まった一〇月二五  
日、二六日に「木育からは  
じまる家族の笑顔」をメイ  
ンテーマに、大人から子供  
まで楽しみながら木材や木  
製品への理解を深め、木材  
消費拡大を目指す取り組み  
として、「第一〇回高知も  
くもくランド2014秋ま

浅川局長あいさつ



重要性について、また、平  
成二六年度「四国山の日  
賞」受賞団体の活動状況等  
を紹介したパネル展示を行  
うとともに、四国の国有林  
の取り組みを紹介した冊子  
等を配布するなど、一般の  
方々に広く紹介することが  
でき、大きなPR効果に繋  
がりました。

のような人集りができ、餅  
が飛ぶ度に大きな歓声が聞  
かれました。

イベントには、木材の利  
用推進を図るため、木製品  
の関係企業等が多数参加し  
ており、二日間を通じて、  
推定二五、〇〇〇人の人々  
が会場を訪れました。  
当局としても、木材利用  
推進を図ることの意義及び



丸太カット

今後においても、このよ  
うなイベントに積極的に参  
加するなど、森林・林業の  
活性化に向けた、当局の取  
り組み等を広く紹介し一層

のPR等に努めることで、  
森林・林業の重要性など理  
解の醸成に努めて参りま  
す。

### 「伊予之二名島古事の森」森づくり活動

〈技術普及課〉



「伊予之二名島古事の森」

の森づくり活動を一〇月  
一八日に愛媛県久万高原町  
のサル谷山国有林（石鎚山  
系の中腹）で実施しました。

この「古事の森」森づく  
り活動は、「伊予之二名島  
古事の森育成協議会」との  
協定に基づき、松山城や道

後温泉本館など木の文化を

象徴する伝統的な木造建築

物の修復材を安定的に供給  
するために、平成一九年度  
から行われている夢とロマ  
ンにあふれた取り組みで

す。八回目となった今年は、  
一般公募による参加者一〇  
名を含む総勢一四名での実  
施となりました。

まず、育成協議会会長の

愛媛大学江崎名誉教授か  
ら、「伝統的な木造建築物  
の定期的な修復に必要な資  
材を安定的に供給するため  
の取組であり、本日行う森  
林整備は、私たちの孫やひ  
孫に役立つ有意義な作業で  
す。」との挨拶があり、作  
業に取りかかりました。

今回は、主に植生保護管



森づくり活動に参加された皆様

（ヘキサチューブ）の取り  
外しと、倒れてしまった植  
栽木を起こす作業を行いま  
した。

参加者の中には第一回目  
から参加されている方もあ  
り、当時を懐かしむ声も聞  
かれました。

今後も、「古事の森」森  
づくり活動を通じて伝統的  
木造建築物と森林の関わり  
合いへの理解の醸成が図ら  
れるよう、愛媛森林管理署

等と連携しながら、森林整  
備等に取り組んでいくこと  
としています。

### 平成二六年度森林総合監理士育成研修事業 「実践研修（現地検討）四国ブロック」開催

〈技術普及課、森林技術・支援センター〉



平成二三年度から三年間  
なりました。

実施してきました「准フォ  
レスター研修」に代わり、  
平成二六年度より「技術者  
育成研修（中央研修及びブ  
ロック研修）」及び「実践

研修」が実施されることと

過日、九月二十九日から四  
日間の日程で実施されま  
した「技術者育成研修（四  
国ブロック）」に引き続き、  
一〇月二七日～二八日まで

の二日間の日程で「実践研

修（現地検討）四国ブロック」を実施しました。

当研修は、地域の特性等を踏まえ、地域の森林・林業の再生に向けた課題を設定し、現地検討・討議を通じて、課題の背景と解決策等を共有することを目的として、全国七ブロックで研修を実施するものです。

研修の実施に当たっては、事業者や団体職員等の外部講師の方々のご協力を頂き、「新たな架線系作業システムへの取組と最新の木材利用・流通」をテーマとして、四国局管内特有の急峻な地形に応じた効率的な架線集材システムや、大型製材工場の木材利用・流通事情等を踏まえた、地域

における木材の安定供給に  
ついて、実践的な指導・助  
言ができるようになること  
を目標として、現地検討・  
意見交換を行いました。

研修には、これまでの准  
フォレスター研修受講者も  
含め、希望者を募ったこと  
ろ、四国四県はもとより、  
遠くは奈良県、和歌山県か  
らの参加者もあり、総勢  
二六名（県職員一八名、市  
町村職員一名、国有林職員  
七名）を対象に、局二階大

会議室においてスタートし  
ました。



開講式【井上業務管理官（次長）】

タワーヤード  
（川井木材事業現場）



討し発表を行い一日目を終  
了しました。

二日目は、午前中、①「川  
下の要求（マーケットニー  
ズ）」と対応の方向」につ  
いて（鶴園森林整備部長）、

②「地域の特性に合った木  
材流通等について」（高知  
県森連相良副参事）、③「大  
型製材工場の現状と課題」  
（高知おおとよ製材（株）  
岡田工場長）の講義を受け、  
研修生は、フォレスターに  
とって、常に広い視点から  
全体を意識して行動するこ  
とが重要であること等への  
理解を更に深めました。

開講式における、井上業  
務管理官からの激励の挨拶  
の後、早速、高知県本山町  
上関（民有林）において、  
外国製タワーヤードと自走  
式搬器を利用した新作業シ  
ステムで木材搬出事業を展  
開している（有）川井木材  
の事業現場へ向かい、川井  
営業部長及び高知県立森林  
技術センター山崎チーフか  
ら説明を受けました。

研修生は、最新の林業機  
械に大いに興味を示し、多  
くの質問がなされ、活発な  
意見交換が行われました。

その後、高知市の研修会  
場へ帰り、各班毎に「シス  
テムを選択した理由」を検



自走式搬器

（川井木材事業現場）

午後からは、高知県大豊  
町内にある高知おおとよ  
製材工場の見学を行いました。